

河川敷におけるタヌキ個体の行動調査

愛知工業大学 フェロー会員 ○四俣正俊、景生保全研究所 千々岩哲

愛知工業大学 大塚大樹、榊原正高、鈴木崇文、安倍浩靖

1. はじめに

河川敷は、開発が自ずと制限されること、水域と陸域の接点として多様な環境を持つことから、都市近郊において貴重なハビタットを形成し、生態学的回廊としての役割が期待される。筆者らはこのことに注目し、ここ数年、豊田市内を流れる矢作川の河川敷においてタヌキの生息調査を行ってきた¹⁾。この調査では調査区間のほぼ全域の左右岸でタヌキの痕跡が確認された。その後2003年3月に1頭のタヌキを捕獲して発信器を付けることに成功したので、今回はそれを用いて行ったタヌキの追跡調査について報告する。

2. 調査区域、調査期間、調査方法

捕らえたタヌキは成獣メスで体重5.6kgであった。子らしい1頭あるいは2頭と一緒に行動していると思われる場面も調査中に目撃した。今回追跡したタヌキの11月までの行動範囲は、矢作川中流部、豊田市内の平戸橋(河口から44.7 km)の上下流方向それぞれ約1kmの左岸側、東西1km弱×南北約1kmの領域である(図-1)。矢作川はここで大きく向きを変えて山の周りを回るように流れており、タヌキは、この山を取り巻くような領域で生活している。この領域は市街地から少し離れており、家屋はあまり多くないが、川沿いに道路(平戸橋から北側の部分は国道)がずっと続いている。過去の痕跡調査から、あるいは図-1からも推定出来るが、河川敷に多いマダケの竹林がタヌキの移動経路として重要な役割を果たしていると思われる。

発信器による追跡調査は現在2つのグループが独立して実施しているが、今回報告するのは、学生のグループが中心になって行ったものについてである。4月16日から現時点(12月10日)までの間に、夜間の調査を11回行った。夜間調査は、18時頃に始め、明け方まで続ける。また泊まり場の位置や行動範囲の状況を調べるため、昼間の調査も8回行った。

発信器を付けたタヌキの位置は、およそ次のようにして決める。調査区域内に、定点をいくつか配置してある。タヌキの居場所に依じて定点を2つ選び、指向性の良いアンテナを用いて2つの定点で同時に電波の来る方向を求める。地図上にこの方向線を引き、交点をタヌキの現在地とする。こうして、15分ごとにタヌキの位置を追っていく。

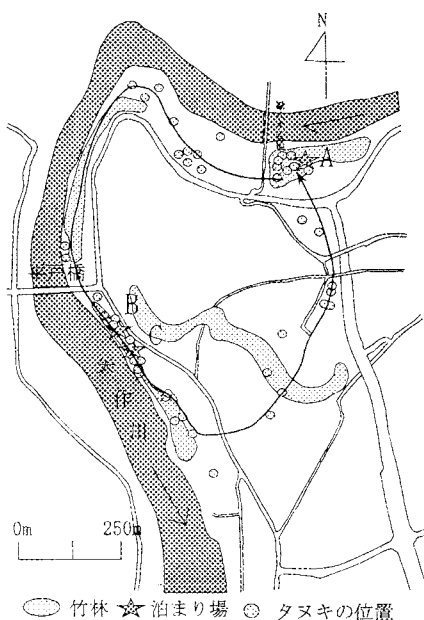


図-1 4~6月の行動

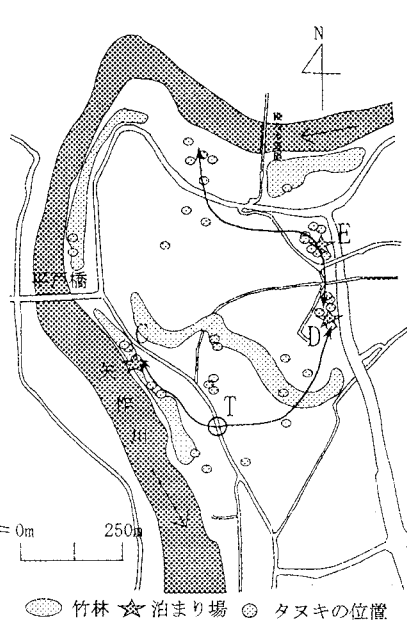


図-2 7~9月の行動

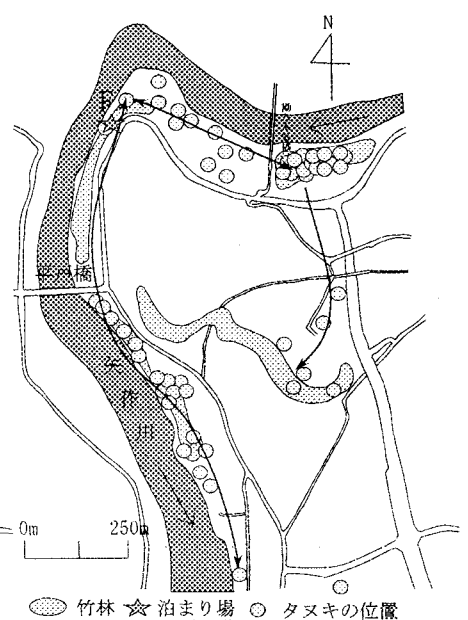
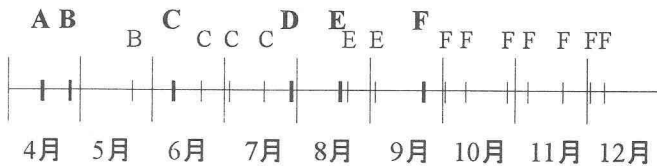
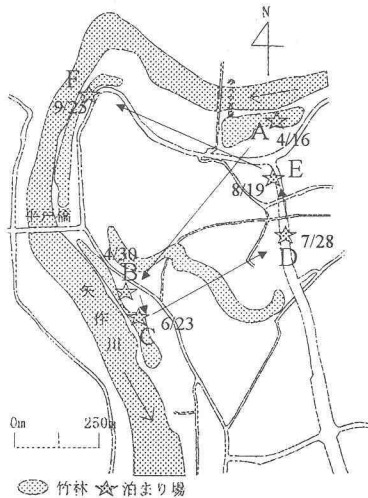


図-3 11、12月の行動

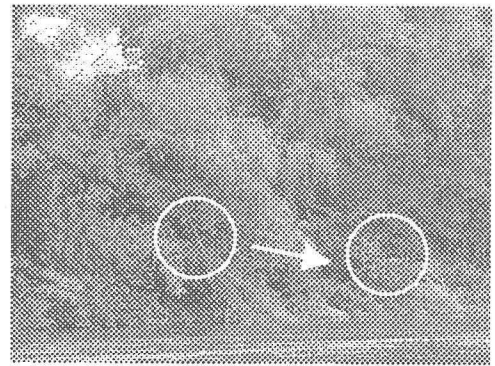
泊まり場の名称 (記号)



図一4 泊まり場の時間的変遷



図一5 泊まり場の移動



写真一1 泊まり場B→C



写真一2 泊まり場E

3. 観察されたタヌキの動き

図一1は、4月～6月の4回の調査結果を纏めたものである。図中の矢印は、おおよそのタヌキの移動方向を示す。☆印はタヌキの泊まり場である。同様に、図一2は7月～9月の3回の調査結果を、図一3は11月～12月の4回の調査結果を纏めて示してある。図一2のTは、タヌキが道路を横断する場所で、いつもほぼ同じであることが確認出来た。図一1、2と図一3を比べると、11月～12月には、それ以前に比べて河川敷にいる時間が非常に長いことが分かる。この期間には、河川敷から出ない日もあった。

調査期間中、タヌキは泊まり場を何回も変えた。図一4は各調査日に確認した泊まり場を示す。泊まり場を表すA～Fの記号は地図中の記号に合わせてある。図一5に、泊まり場の移動を矢印で示した。写真1は泊まり場BとC、写真2は泊まり場Dを示す。

確認できただけで、このタヌキは調査期間の9ヶ月間に6箇所の泊まり場を使用している。泊まり場を移動した原因らしきものが推測出来るのは次の3ケースである。A：100mほど離れた所で道の駅を作る工事が行われていた。B：上の竹林の伐採が始まった。D：台風によって泊まり場周辺の草が薙ぎ倒された。

4. 確認出来たことのまとめ

- ・このタヌキは、日が出てくる頃までには泊まり場に戻って来る。
- ・夏過ぎまで月に1度位くらいの頻度で泊まり場を移していたが、9月末以降泊まり場を移動していない。
- ・11月、12月は河川敷に長く居るようになった。
- ・夜間の行動中に、長く立ち止まる場所が河川敷内に2ヶ所ある。そのうちの1ヶ所は池の近く、もう1ヶ所は民家の裏の竹林である。
- ・1ヶ所だけの確認例であるが、同じ場所で道路を横断する傾向が見られた。この場所で道路を横断する前には暫く動きが止まる傾向が見られる。

参考文献

1) 四俣正俊他：市街地河川敷におけるタヌキの生息調査、平成15年度土木学会中部支部研究発表会講演概要集、pp.639-640 (2002.3)